①阿知須地区社会福祉協議会（山口県山口市）

（構成：民生委員・児童委員、福祉員、自治会長、老人クラブ、婦人会）

②《活動主体の概要》

〇総 人 口：　９，４７６人
〇高齢者数：　２，７６６人
〇世 帯 数：　３，８３６世帯
〇産業構造：　農業、漁業
〇地理的構造：山口県の山陽側中央部に位置する旧吉敷郡阿知須町地域

③活動のきっかけ

昭和６２年、６３年に、地域内でひとり暮らし高齢者の孤独死が２年連続で発生したことがきっかけとなり、地域の中で支え合う仕組みづくりを進めて行く必要性を感じるようになりました。ちょうど、当時は全国的にも見守り活動が定着しつつある中でもあり、他の地域の取組事例なども参考にしつつ、山口県社協が進める「福祉の輪づくり運動」のスローガン『一人の不幸も見逃さない』に沿って、平成元年１２月から、山口市との合併前の旧阿知須町地域において、ひとり暮らし高齢者などを見守る「友愛訪問活動」を開始しました。

④活動方法

地区担当の民生委員・児童委員を軸に、福祉員、自治会長、老人クラブ、婦人会との協働により、３日に１回のローテーションを組んで、家庭訪問や電話などによる安否確認、話し相手等、３６５日切れ目のない見守り活動を展開しています。

訪問に当たっては、「ケアグループ・ローテーション表」を活用しています。「ケアグループ・ローテーション表」とは、３日間ごとに区切って、１人の担当者が訪問し、次の３日間は別の担当者が見守り活動を行うといった、活動日と担当者を記載した表のことです。この表を作成する民生委員・児童委員は、訪問間隔が開きすぎたりしないよう、なるべく３日間の「なか日」に訪問するなどの配慮を呼びかけながら、活動者間の調整を行っています。

（友愛訪問活動）

⑤工夫点

月に１度、活動者と定例会を開き、その場で翌月のローテーション表を配布するようにしています。そのなかで、対象者の状況等をメンバー間で共有するなどし、小地域ならではのきめ細かな見守りの仕組みができています。訪問後は個別の訪問記録表を作成し、１０年間保管するようにしており、必要に応じて活動者が過去の記録を参考にしたり、求められれば家族にも開示できるようにしています。

⑥成果

活動を開始して２６年が経過するなか、社協だけでなく地元住民も巻き込み、地域をあげて取り組む見守り活動に発展して

います。中にはローテーション表や訪問記録表を独自に工夫する地区も出始めるなど、当初と比べてより主体的な活動になってきました。

また、この活動をベースにすることで、サロン活動や防災活動など、他の事業への展開もスムーズに図られています。

（ローテーション表）

⑦課題

当初、見守りの対象となる高齢者からは、「安心できる」、「話し相手ができた」などの好意的な声から、「見張られているような気になる」といった批判的な声まで、両方の意見がありました。これは、見守る側と見守られる側の意思の疎通が十分ではなかったことが原因でした。その後、この活動がなぜ必要なのか理解を得るため、お互いが丁寧に話し合う中で意思の疎通が図られ、そういった問題は解決していきました。ただ、いろいろな人が関わるだけに、今後も個人情報の保護やプライバシーの配慮に十分気をつけながら活動することが大切になります。

⑧代表者、事業者等の声

見守り活動については、日頃のつながりをいかに意図的に作っていくかが重要です。そうでなければ、今までつながりがなかった人は心を開いてくれません。日頃から地域の中で、お互い様の気持ちで、目配り、気配り、心配りを通してつながっていることが大切であり、そのような関係はいざという時、例えば大災害の時などに必ず役立ってくると思います。

（阿知須地区社協　山本貴広事務局長）